

～創造理工学部～ 若手研究者の声

建築学科 助教 山村 崇さん

(2015 年度 若手研究 B 採択)

科研費に応募したのは、単純に研究費が必要であったということもありますが、将来の研究者としてのキャリアを考えたときに競争的資金の獲得実績が重要になるという理由が最も大きかったです。また、民間で研究職を志望する場合でも、競争的資金の獲得実績は重要であると理解しています。

4 月に着任になった直後に研究活動スタート支援に応募することもできたのですが、自身の博士論文の発表等の時期と重なっていたので、応募を見送りました。今から振り返ると、競争的資金獲得のチャンスがあるのであれば、以後のキャリアのことも考え応募した方が良いと思います。また、急いで研究費が必要となる場合でなくても、早期に研究費を獲得し、研究設備を整えておくことで将来の研究への投資をすることができた、ということも振り返って感じます。

企業や自治体からの委託研究費を獲得している方であっても、科研費は広く一般に評価されている研究費ですし、積極的に応募する価値が十分にあると思います。

経営システム工学科 助手 三川 健太さん

(2014 年度 若手研究 B 採択)

着任したその年に若手研究 B に応募し、採択されました。その時は、仮に若手研究 B が不採択となっても、審査結果で一定の評価を得ていれば特定課題 B に採用されるという考えもありました。

学内研究費だけでは出張（特に海外）に十分な回数に行くには自分にとっては不十分なところ、科研費のおかげで出張の自由度が増しました。特に学会で、発表ではなく一般参加であっても旅費を支払うことができるので助かっています。

科研費は主に、書籍、出張、論文投稿費に使用しています。知識を深めたり、人脈を広げたり、将来を見据えて自らのためになるような使い方を心がけています。また、研究室の研究費で高額のものを購入することは気が引けて、頼みにくいですが、自分の科研費であれば自由に使うことが出来ます。

助手の方々と、博士論文の執筆で多忙な方もいると思いますが、そういった方こそ、科研費を獲得し研究を進展させることで、博士論文の完成に近づけるのではないかと思います。

環境資源工学科 助教 長尾 全寛さん

(2014 年度 若手研究 B 採択)

過去に、自身の用務が忙しいこと、業績が足りないと思ったこと、書き方がよくわからないこと、などを理由に応募を見送ったことがあります。しかし、今振り返ると、その頃に応募をしておけば良かったと感じています。

科研費の申請書は、初めて作る時は気が重かったのですが、いざ取り掛かると、1 週間程度で作成することができ、応募を見送る理由になるほど大変ではなかったです。また一度応募すると応募の流れがわかり、次からが楽になります。まずは勇気を持って一歩踏み出すことが大切だと思います。

人事採用の際に、科研費の獲得実績で組織貢献度などを見る場合があると聞いたことがあるので、初めて作成する時は気が重いかもかもしれませんが、次のポストのためにも科研費には応募した方が良いと思います。

また、科研費で購入した設備備品は次の赴任先にも持っていくことができるので、異動後にも研究環境の確保できるので、大変便利だと感じています。

社会文化領域 助教 板井 志郎さん

(2014 年度 若手研究 B 採択)

自分が助手だった当時は、周りも科研費に応募をしていたので当然応募するものだと思っていました。業績が少ないという思いはありましたが、応募しないと採択もされないのが気にせずに応募をした記憶があります。

将来のことを考えると科研費の応募資格があるのなら、応募した方が良いと思います。たとえ今、研究室に潤沢に研究資金があったとしても自分が自立し研究室を持つようになった時は、自分の力で研究費を獲ってこないといけません。自分も助手の当時は気付かなかったのですが、科研費応募は自立に備えたトレーニングになることは間違いないので継続的に応募した方が良いと思います。

また、現在、博士論文を書いている段階であれば、そこに書く今後の課題や展望はそのまま科研費申請書にも流用できるかもしれません。そうすることで工数がそんなに掛からずに申請書が書けるかもしれないので、最初からあきらめずに応募できる方法を考えてみてはいかがでしょうか。